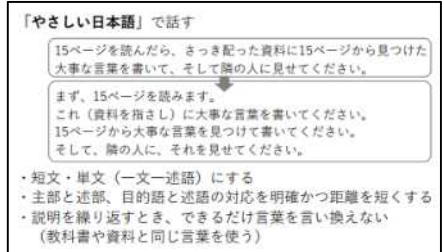


【受入れ体制の整備のポイント】

日本語指導の在り方等についての教職員の共通理解  
学校生活への適応及び日本語指導の充実に向けた体制整備

1 日本語指導が必要な児童生徒が「わかる！」を実感できる授業づくり

- ・本町では、日本語指導が必要な児童生徒をいつでも受け入れられる学校体制を整えるために、大学から講師を招聘し、日本語指導が必要な児童生徒等教育の基本的な考え方や日本語指導の在り方等に係る研修会を実施し、教職員の共通理解を図っています。
- ・研修では、模擬授業を通して、日本語指導の必要な児童生徒が各教科等の授業内容を理解できるよう、指導者が絵や動画などの視覚教材を使用すること、どの情報がどこに書かれているか分かるように板書や資料の型を揃えること、「やさしい日本語」で話すこと、などの授業づくりのポイントについて、学んでいます。



【やさしい日本語の一例（研修講師の資料）】

2 研修を踏まえた学校の指導・支援体制の充実

- ・学校では、外国人児童生徒がスムーズに学校生活に適応できるよう、通訳ができる地域人材等を活用しながら、保護者に対して、日本の学校教育制度や教育内容、学校の経営方針、学校生活などについて丁寧に説明し、理解を得られるようにしています。
- ・学校全体で組織的に日本語指導や必要な支援を行えるよう、校務分掌に日本語指導を位置付けるとともに、日本語指導の必要な児童生徒の学習状況や生活の様子などについて校内で共有できる仕組みを整備しています。
- ・全校児童生徒が異文化理解や多文化共生の視点をもてるよう、外国人児童生徒の母語で書かれた教室プレートを設置するなどしています。

【児童生徒の実態の多角的な把握に基づく指導のポイント】

DLAによる日本語能力の把握と校内での情報共有  
当該生徒の進路希望を踏まえた教科指導の充実

1 DLAの実施と校内での情報共有

- ・当該生徒の日本語能力を適切に把握し、指導に生かすためにDLAを実施しています。
- ・把握した日本語能力（中学校第1学年当時のJSL評価参照枠：ステージ2（初期支援段階））等を踏まえて日本語指導の目標を設定し、校内で共有しています。  
【目標】 様々な学習活動に日本語で参加できるよう、第2学年までにステージ4（個別学習支援段階）に到達  
進路希望（公立高校への進学）の実現を目指し、第3学年までにステージ6（支援付き自律学習段階）に到達
- ・有識者による相談支援や道教委主催の研修の内容を基に、当該生徒への日本語指導の方針や方法等について校内研修等を通じて共有し、学校全体で共通理解を図っています。

【共通理解を図った内容の例】

第1学年では各教科の学習に関する言葉を積極的に扱い、学習参加のための日本語の力を高める  
第2学年では進路希望を踏まえ、数学科や外国語科等において在籍学級での学習を多く取り入れる など

2 進路希望の実現を目指した教科指導の充実

- ・当該生徒の進路希望を踏まえ、各教科等で求められる資質・能力を育成することができるよう、各単元（題材）の目標や指導形態などを整理した個別の指導計画を作成し、当該生徒及び保護者と共有しています。
- ・A Iドリルの活用など、教科の特性に応じて1人1台端末を効果的に活用しています。
- ・社会科や理科など、理解が難しい用語の多い教科については、取り出し指導の際に、教科につながる日本語の書籍等を活用して予習を行い、学習内容が理解しやすくなるよう支援しています。



【1人1台端末を活用した教科指導】